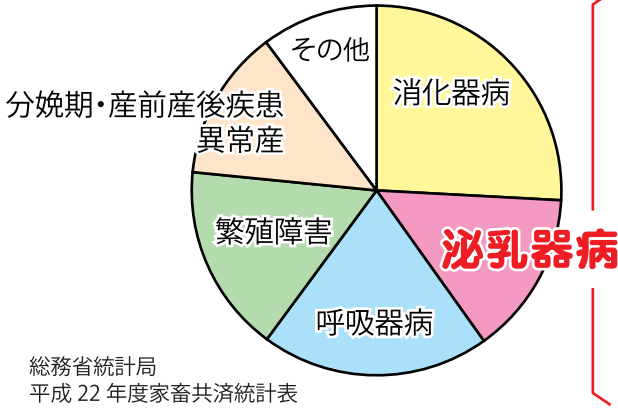


マイコプラズマを上手にコントロールするには



牛の死廃病傷原因



乳量の減少が著しい

治療してもなかなか治らない

一般細菌検査は陰性

いつきに複数分房に波及しやすい



いつもとは違う乳房炎...

マイコプラズマ乳房炎はコントロールすべき疾病です!

牛群管理

2本立てで上手に管理

個体管理

※ 定期的なバルクタンク検査

※ 随時検査

- ・初乳 (特に初産)
- ・導入牛 (着地検査)
- ・調子の悪いウシ

PCR検査 5営業日以内

陽性

スピード勝負!

8菌種同定 +3営業日以内

陽性

- M. bovis*
- M. californicum*
- M. bovigenitalium*
- M. canadense*
- M. dispar*
- M. bovirhinis*
- M. arginini*
- M. alkalescens*

バルクタンク検査陽性の場合、全頭検査を推奨します。

個体を特定

牛群への蔓延を阻止



あなたの子牛を呼吸器病から守りましょう！

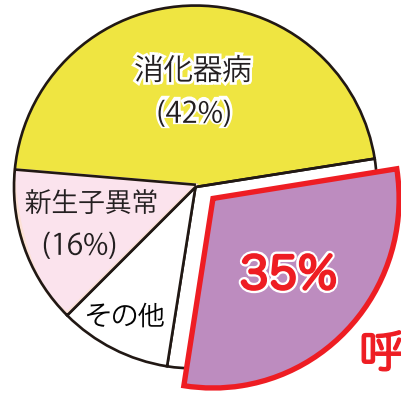


呼吸器病はなぜ起こるの？

子牛の死廃病傷原因

ウイルスや細菌、
マイコプラズマの感染
免疫力の低下

呼吸器病
の発生！



呼吸器病

ストレス・環境要因

H29年度家畜共済統計表

予防 & 対策

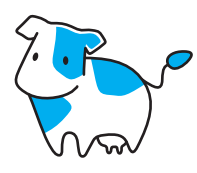


- ① ストレス要因の除去（密飼い、輸送など）
- ② 病原体の増殖を抑制（消毒、換気、温湿度管理）
- ③ ワクチン接種（ウイルスワクチン、細菌ワクチン）
- ④ **遺伝子検査による早期発見**

主な原因微生物

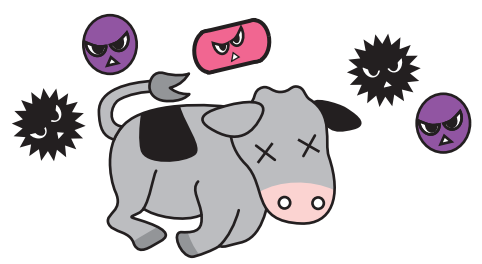
- マイコプラズマ
- マンヘミア(Mh)
- パスツレラ(Pm)
- ヒストフィルス(Hs)
- BVD

ミルねがみるよ！



を遺伝子分析

複合感染により
肺炎症状が重篤化



検査による早期摘発で、子牛を呼吸器病から守りましょう！

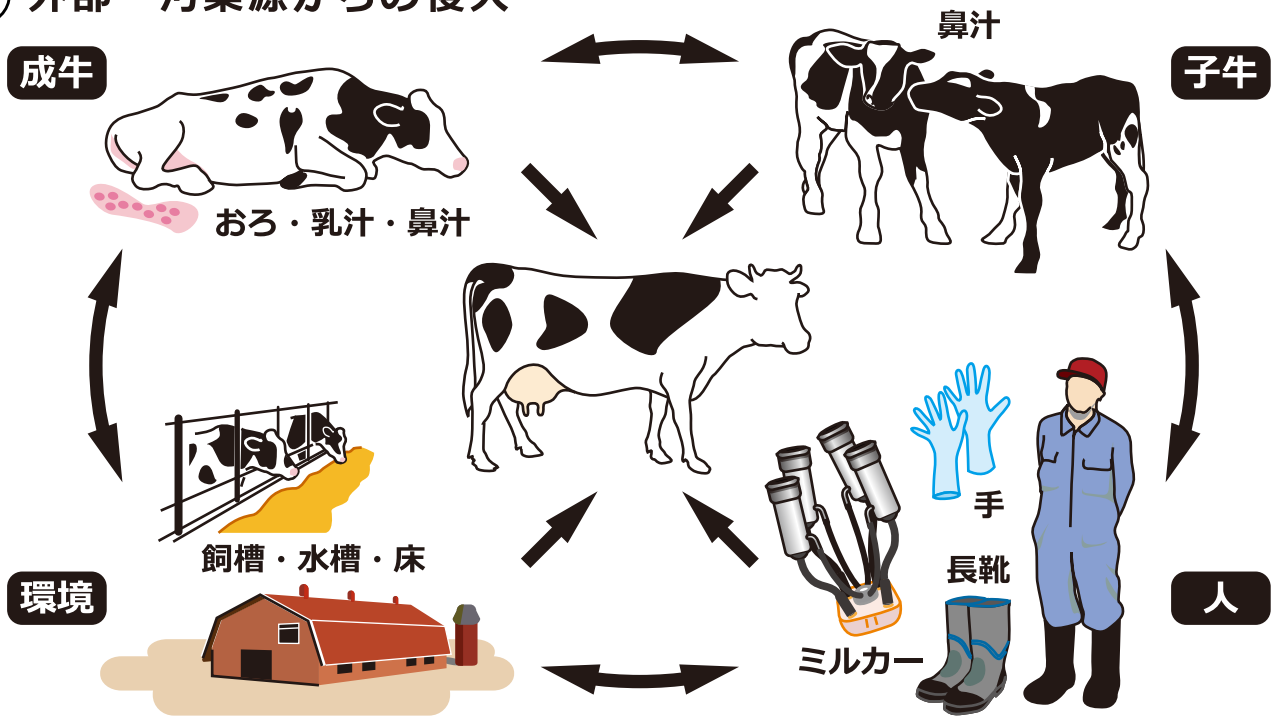


マイコプラズマはどこからくるの？

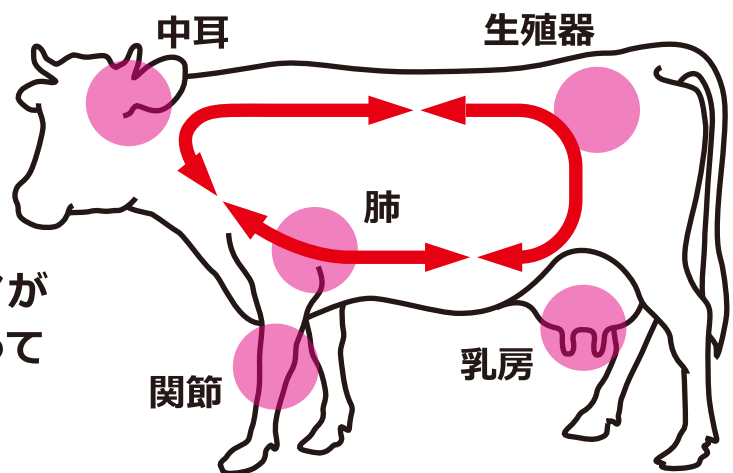
❓ 自家産牛が最初の1頭目になることも多い...
あなたの後継牛は大丈夫ですか？

マイコプラズマの侵入経路は大きく分けると2通りあります

① 外部 汚染源からの侵入



② 体内にあるマイコプラズマが血液を介して全身をまわって他臓器へ波及



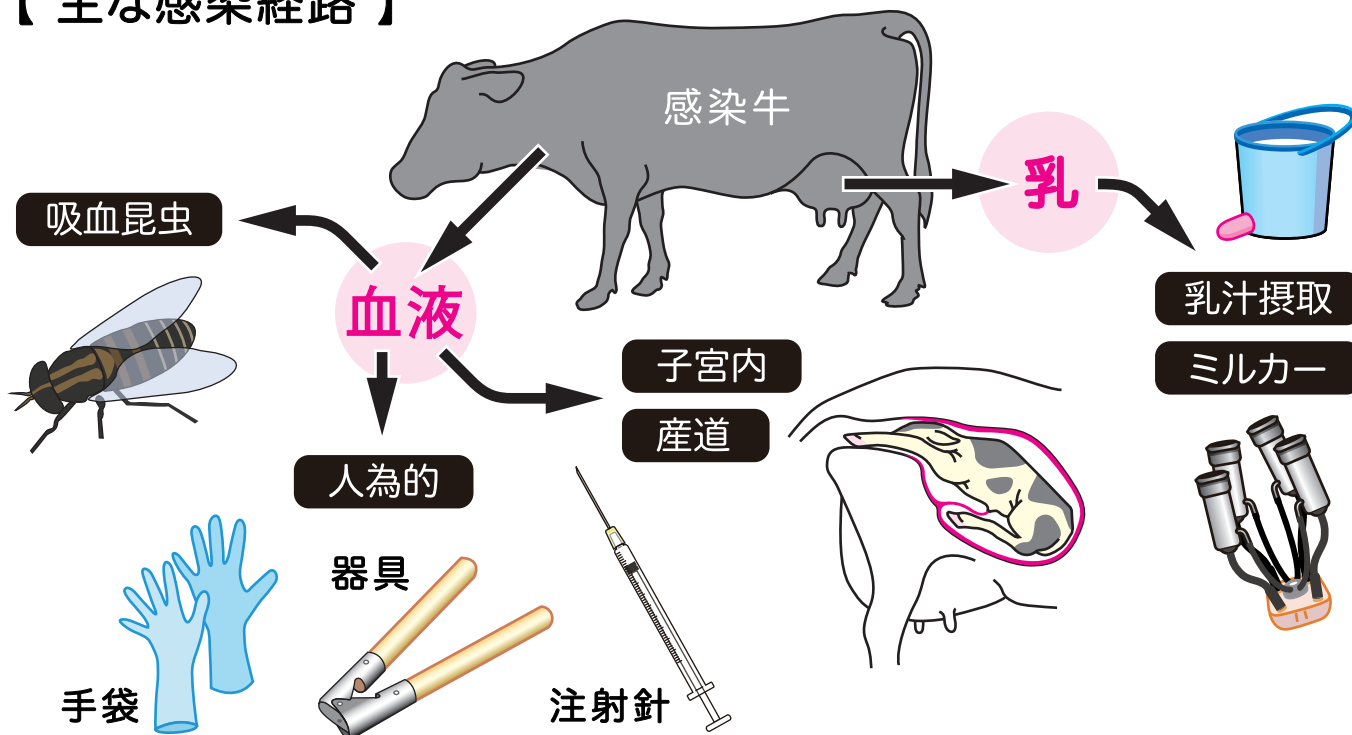
感染症のまん延を防ぐためにはマイコプラズマの主な汚染源や感染経路を理解し、一つ一つ遮断していくことが大切です。





牛伝染性リンパ腫には有効なワクチンや治療法がない

【主な感染経路】



3つ
の対策

- ① 感染牛を早期把握
- ② 陰性牛のモニタリング
- ③ 感染牛からの新たな感染拡大を防ぐ（主な感染経路参照）



① と ② をお手伝いします！

弊社の遺伝子分析サービスは新生子牛から検査可能



感染率を下げて蔓延を防止



血中脂溶性ビタミンを調べることの重要性

脂溶性ビタミンは牛の生理機能に大きく関わります

たとえば...

ビタミン A 肉質向上の為にコントロールされます



ビタミン E 体細胞数と関連します



β-カロテン 卵巣機能に影響します



ビタミン A, ビタミン E, β-カロテンの欠乏に注意

ビタミン A

不足

筋肉水腫・食欲低下
視力障害 など

ビタミン E

不足

免疫機能低下
抗酸化活性低下 など

β-カロテン

不足

繁殖成績低下
など



**血液中ビタミン濃度を調べ、
適切にコントロールしましょう**

※ ビタミン A は体内に蓄積しやすい性質がありますので、多給にも注意しましょう



BVDの清浄化をお手伝いします!

Q

牛ウイルス性下痢症(BVD)



って どんな病気?

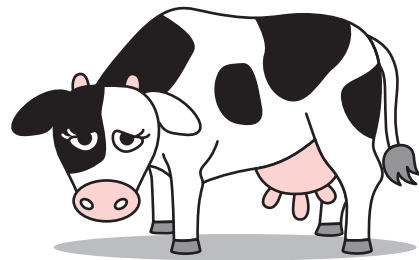
A

急性感染(一過性)と持続性感染(PI)がある。

季節・地域に関係なく発生。

届出伝染病に指定。

あなたの
農場は 大丈夫?



- ★ 死流産や虚弱などの異常産が多い。
- ★ 慢性的な下痢や発熱・呼吸器症状を示す牛が多い。



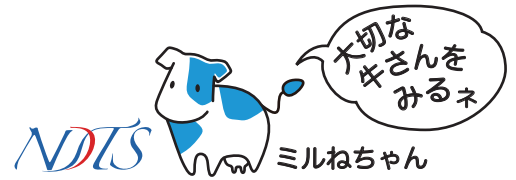
PI牛が潜んでいるかもしれません。

BVDの対策
をしましょう。

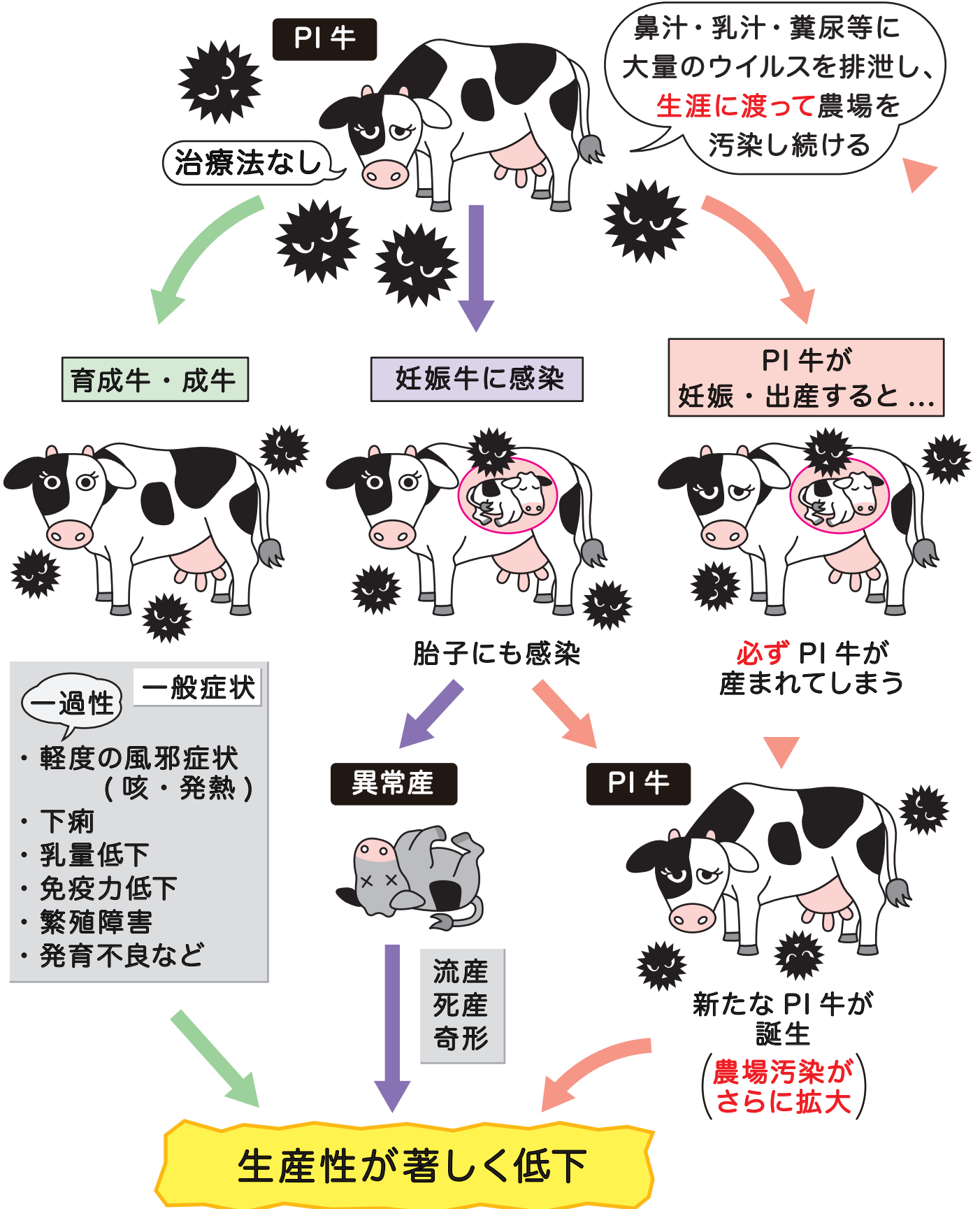


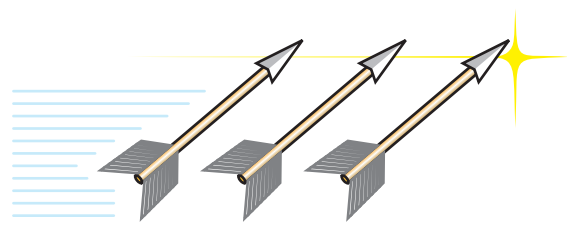


PI 牛の早期摘発が重要



【 1 頭の PI 牛が与える影響 】





BVD に有効な 3 本の施策



どれか一つが欠けても十分な効果は得られません

① ワクチン接種

全ての牛に毎年、追加接種を実施。
かかりつけの獣医師にご相談ください。

② PI 牛を摘発・淘汰

- ・ バルク乳・血清・耳片・唾液を用いた
スクリーニング検査
- ・ 新生子牛・調子の悪い牛は
個別検査

③ 農場へのウイルス侵入防止

- ・ **導入牛の検査と隔離**
- ・ 消毒などの日常の衛生管理を徹底

② と ③ をお手伝いします！

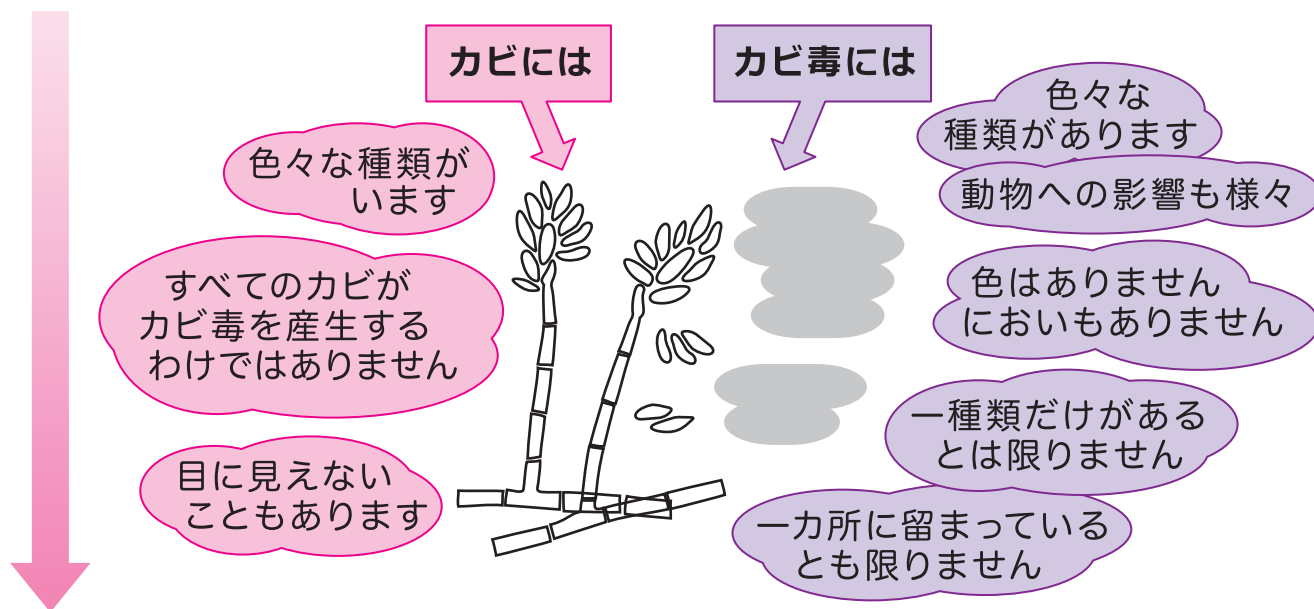
弊社の遺伝子分析サービスは新生子牛から検査可能



有効な対策を実施して、
BVD から農場を守りましょう

飼料のカビ毒汚染が話題になっています

★ 餌の食いが悪い …もしかして **カビ毒?**
★ 繁殖障害かも



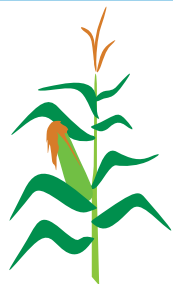
検査でカビ毒をチェック!

※サンプリングは複数箇所から行いましょう

カビ毒の対処法

1 適切な栽培

鳥や虫が食害しにくい品種、倒れにくい品種を選びましょう
刈り遅れを防ぎ、収穫残渣を残さないようにしましょう



2 適切な調製

サイレージは十分に空気を追い出し密閉してください

枯れ草や土、肥料が混入しないように注意しましょう



3 高濃度汚染飼料は廃棄



カビ毒の汚染が一定量以下であれば家畜への影響はほとんどありません



カビ毒検査を活用して、適切な対策を行きましょう!



薬剤耐性菌が問題になっています！

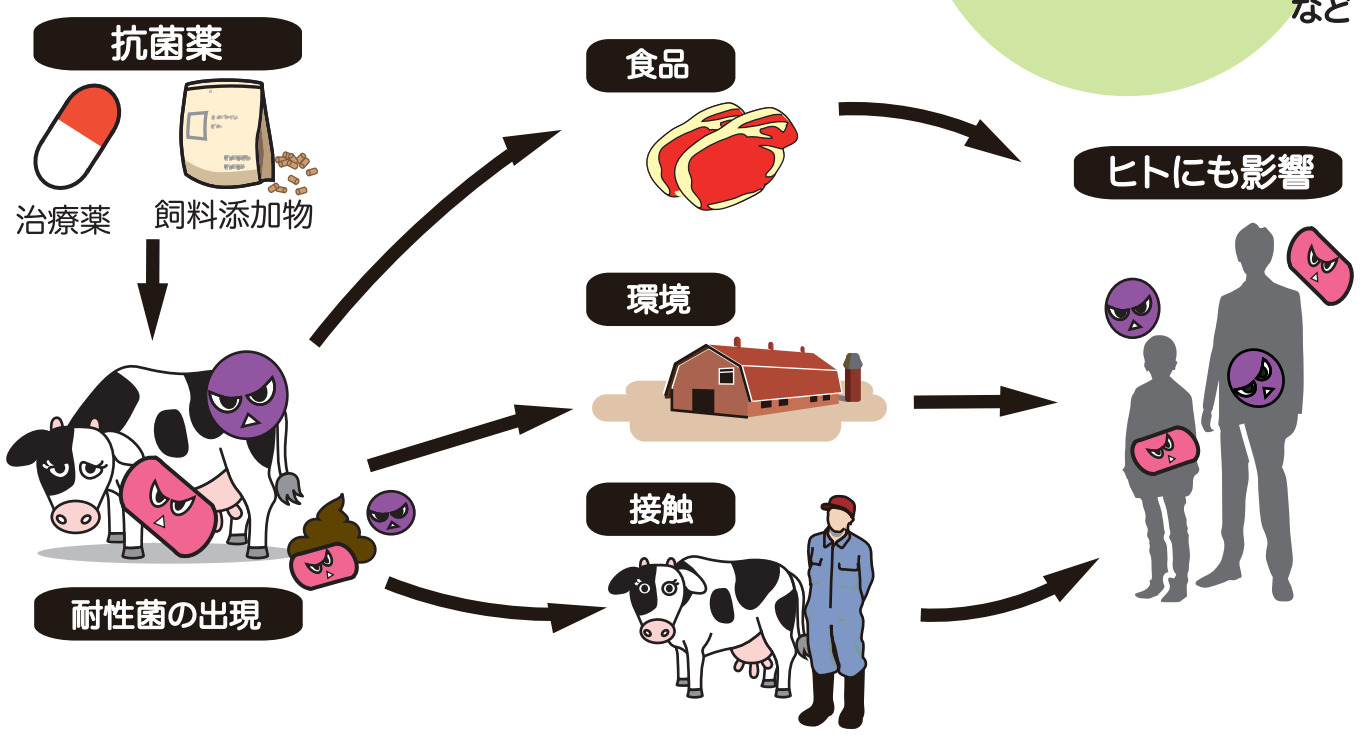


Q 『**薬剤耐性菌**  』って なに？

A **薬が効かない菌=病気が治らない**

耐性菌の蔓延は
危険がいっぱい！
使える薬がなくなっていくと・・・
重症化 大規模な集団発生 など

耐性菌はどうして生まれるの？



耐性菌を作らない・広げないためには？

- ① 基本的な感染症対策（衛生管理、ワクチン接種など）
- ② 原因菌の特定と抗菌薬の適正使用

↓
薬剤感受性試験(MIC)で賢く選択！



抗菌薬を未来へ残しましょう

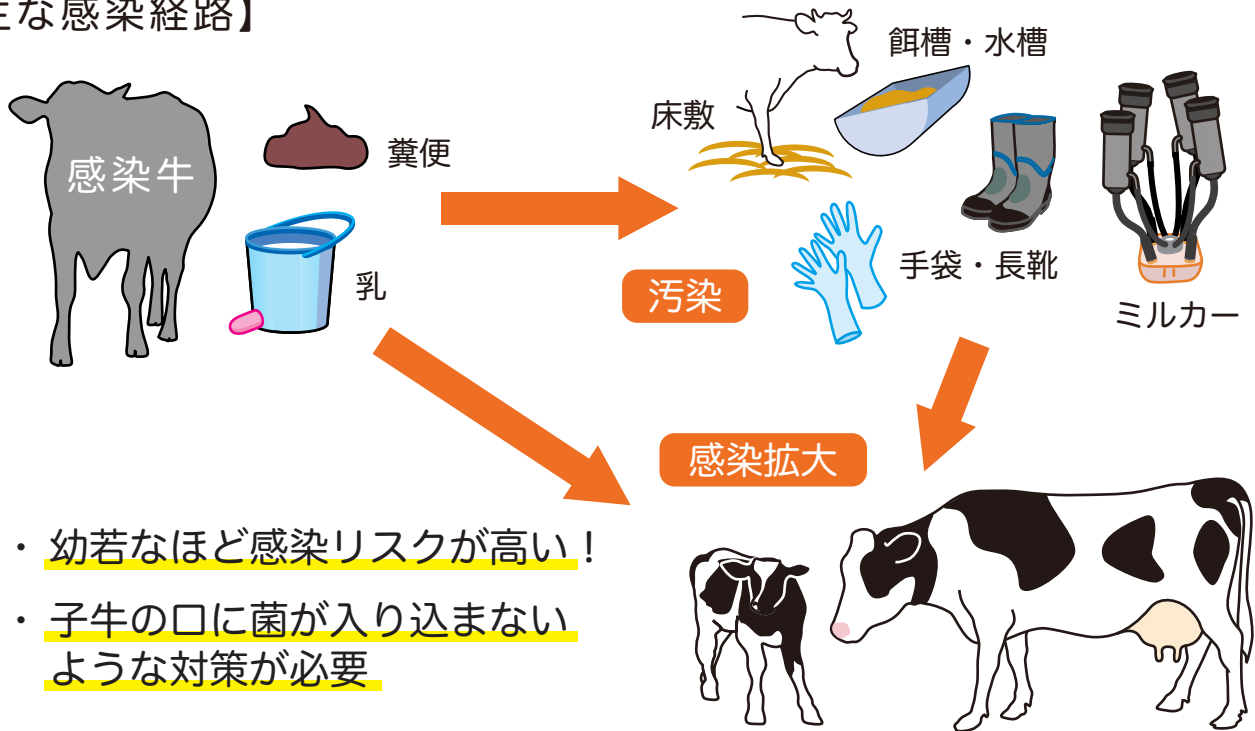


排菌牛の早期発見で、 ヨーネ病から農場を守りましょう！



ヨーネ病には効果的な治療法やワクチンがありません

【主な感染経路】



3つの対策

- ① 排菌牛の早期発見
- ② 感染経路の徹底した消毒と一般衛生管理※
有効な消毒：塩素系, オルソ剤, 消石灰, 熱処理 など
- ③ ヨーネ菌を持ち込まない・運ばない※
導入牛の検査, 牛舎ごとに長靴を変える など

※「主な感染経路」を参照



弊社の遺伝子分析サービスは ① と ③ をお手伝いします！



感染から発症までの経過が複雑で、一度の検査では判定が難しい病気です。必ずかかりつけの獣医師にご相談ください。

